## 1. 屋嶋城

10:10 屋島山上 到着



高松市埋蔵文化財センターの渡邊 誠さんに 解説していただきました。

駐車場から血の池横を通り、舗装された道を城門まで歩きます。





血の池は、源平合戦のとき、檀ノ浦で戦った武士たちが血刀を洗ったため、「血の池」と呼ばれるようになった そうです。



## 屋島檀ノ浦

平安末期の源氏と平家の古戦場として知られています。 この地での源平の戦いの中の、義経の弓流し、那須与一 扇 の的などは様々な物語・絵巻として残されています。

牟礼・志度方面の町並み。午後から見学予定の石の民俗資料 館で展示されている庵治石の採石場も見ることができます。



屋嶋城への案内板に従って進みます。

平成28年3月に整備が完了し、足元は舗装され、水はけも良く、歩きやすくなっていました。



## 屋嶋城 城門跡

約1350年前に中大兄皇子が築いた屋嶋城は、約18年前に発見されました。

往時の姿をよみがえらせるため、平成19年度から高松市が進めてきた屋嶋城跡城門遺構保存整備は10年近くの歳月をかけ、ついに平成28年3月、城壁、城門のみならず、屋島の歴史と自然を満喫できる空間となって完成しました。延長約50m、高さ約6mを超えてそびえたつ屋嶋城の城壁の迫力を体感できます。



城門地区は南嶺南西斜面に位置し、城門とその周辺に大規模な石積みによる城壁が築かれていた場所です。 城門は国内の古代山城の中でも最大級の規模で、朝鮮半島の城づくりの技術を裏付ける「懸門」や「甕城」などの戦闘時に有効な防御施設が遺構として残っており、屋嶋城の築城に百済の人たちが関わっていたことを伝えてくれる重要な場所です。

態削:城の入口にわざと2.5mほどの石積みの段差を設けたもの。普段は梯子をかけて出入りします。 甕城:城門を入ってすぐ、岩盤で行く手をはばみ、左手へと進ませるような仕組み。侵入してくる敵に横から 矢を射かけられるようになっています。



見学のための階段を下りていきます。



城壁は、すべての面を石積みで築いています。 高さ約6mで、推定高さが7mに及ぶ箇所もあります。 地形に沿って城壁が築かれているため、くねくねと蛇行して いるのが特徴です。

## 屋嶋城についてより詳しく知りたい方は、高松市HPをご覧ください↓

https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/4727.html

今回は、持参したスマートフォンや貸出しのiPadを使用して、「甦る屋嶋城」を体感しました! 現地では、AR技術を用いて往時の城門の姿をよみがえらせることができます。



「甦る屋嶋城」アプリをあらかじめダウンロードし、現地で起動します。

ARページを開き、城壁などにカメラを向けると・・

当時の屋島城の様子が見られます!





「兵士なりきり記念撮影」もできます。 カメラを人に向けると、甲冑を着た写真が撮れます。 自身のタブレットやスマホなら、写真を保存することもできます。 気軽に体験できるとあって、大好評でした。

帰りは、屋島寺を通って戻ります。



途中、瀬戸内国際芸術祭の作品を見ることができました。



猪おどし





屋島寺の境内はお遍路さんでいっぱいです。

こちらは彼の有名な (?) 蓑山大明神。 四国狸の総大将「太三郎狸」と呼ばれる土地の氏神様です。

11:55バス 出発12:10昼食会場

遊食房屋別亭 美味休心 高松木太店 到着



落ち着いた和の空間での昼食となります。 見た目も華やかな和食御膳です。



今回はいちじくのアイスのサービス付きです!



参加者さん同士での交流の場ともなり、会話が弾んだ楽しい食事時間となりました。

13:10 バス出発